

会 議 録

会 議 の 名 称	第1回第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議
開 催 日 時	令和7年11月21日(金) 9 時 30 分 開会 11 時 10 分 閉会
開 催 場 所	美幌町役場 2階 第2会議室
出 席 者 氏 名	原田委員、宮田委員、信太委員、円館委員、泊り委員、弥三谷委員 田中委員、小林委員、滝川委員、野口委員、河端委員
欠 席 者 氏 名	伊藤委員、幸田委員、奥山委員
事務局職員職氏名	沖崎商工観光課長、午来農業振興主幹、成田商工観光G主査、 矢口商工観光G主事
議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会・委員委嘱 2 副町長挨拶 3 委員紹介 4 策定会議の基本事項について 5 観光振興革新戦略ビジョンの位置づけ・目的の共有 6 現行ビジョンの検証、次期ビジョンの基本方針の確認 7 今後の進め方の整理
会議の公開又は非公開の別	公開
傍 聴 人 の 数 (会議を公開した場合)	0名
会議資料の名称	第1回 第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン策定会議議案 資料1 (現行)美幌町観光振興革新戦略ビジョン 資料2 観光入込等の推移、アクションプランの実績 資料3 事業所アンケート(案)
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全部記録
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録
	<input type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	

発言者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
副町長	<p>1 開会・委員委嘱 （進行：河端経済部長） 委嘱状の交付（机上配布）</p> <p>2 副町長挨拶 矢萩副町長より挨拶</p> <p>3 委員紹介 委員及び事務局の紹介</p> <p>4 策定会議の基本事項について</p> <p>（1）会長・副会長の選出 会長 宮田博行 委員 副会長 伊藤健一 委員 に決定 宮田会長より挨拶 （以降、進行は宮田会長）</p> <p>（2）会議の開催回数・スケジュールについて事務局より説明</p> <p>5 観光振興革新戦略ビジョンの位置づけ・目的の共有</p> <p>（1）町総合計画との関係</p> <p>（2）策定の目的、観光の現状と課題</p> <p>（3）計画期間について 事務局より一括で説明</p>
滝川委員	総合計画はいつから始まりますか。
沖崎商工観光課長（事務局）	<p>総合計画につきましては、現行の計画が令和8年度までとなっており、令和9年度からは新たな計画の策定が予定されております。現在、その策定に向けて、審議会等を開催しながら準備を進めているところでございます。</p> <p>そのため、今回策定を進めておりますビジョンにつきましても、総合計画の計画期間と整合を図りながら進めていきたいと考えております。</p>
宮田委員長	<p>総合計画について、今後の町の方向性によっては、「どのような町にするか」といった部分について、もしかしたら大幅に変わる可能性もあるのでしょうか。</p> <p>先ほどご説明があったように、総合計画が上位に位置づけられており、観光振興戦略ビジョンを実行するための施策についても、その総合計画を踏まえて進められるべきものであると認識しております。</p> <p>自分自身が審議会の委員としても関わることもありまして、総合計画で示される目標に向かって、具体的に何を進めていくかという点が重要であり、総合計画の方向性次第で、それぞれの内容も多少変わっていくのではないかと感じております。</p>
河端委員	<p>変わるか変わらないかという点につきましては、これから議論を深めていきながら策定していく計画でございますので、現時点では正直なところ何とも申し上げられない、というのが率直な認識でございます。</p> <p>ただし、今回の観光分野に関して申し上げますと、これは各部会での協</p>

宮田委員長	<p>議・議論にもなる部分ではございますが、課題の根幹については、従来からの課題と大きくは変わっていないのではないかという認識を持っております。</p> <p>したがって、総合計画内における観光分野につきましては、現時点ではそれほど大きな変動はないのではないかと私は考えております。</p> <p>総合計画と今回の観光振興戦略ビジョンとの整合性を図りながら、計画を進めていきたいと考えております。</p>
原田委員	<p>前回の観光振興ビジョンの策定時には、総合計画が先に策定された上で、それを踏まえて作られたものなのではないでしょうか。</p>
沖崎課長	<p>前回の計画につきましては、現在お手元に配布させていただいておりますが、平成28年度から平成30年度までの計画として策定されており、計画期間は11年間となっております。</p> <p>現在の総合計画につきましても、同様に11年間の計画期間となっていることから、今回も必要に応じて変更を加えながら進めていく想定です。</p> <p>なお、事務局につきましては、いずれの場合も美幌町が担っており、総務部政策統計課と商工観光課が連携し、事務レベルで情報共有を図りながら進めてまいりたいと考えております。</p>
原田委員	<p>同じ形で進めるんですね。</p>
宮田委員長	<p>このページに示されております戦略ビジョン全体、特に現在の戦略ビジョンの2ページ目（資料1の2ページ）において、計画の位置づけが明確にされております。</p> <p>その中では、「その人がつながる 未来をつなげる ここにしかないのってこと」というコンセプトが掲げられており、それに合わせた形で、『『ホッ』とする町、きっと行きたくなる、癒しのまち』というテーマを設定しております。</p> <p>そういった方向性のもとで、今後は総合計画とも取り合わせながら、計画を進めていけたらと考えております。</p>
河端委員	<p>その他、この計画につきましては、当初策定した際には、単独の計画として位置づけておりました。</p> <p>そのため、当初は総合計画との間に一定の差異が見られたという経過がございます。</p> <p>しかしながら、最上位計画である総合計画の目的やビジョンが最優先されるべきであるという観点から、観光の分野においても、それと乖離する内容では適当でないとの判断に至りました。</p> <p>その結果、総合計画との整合性を図るため、計画期間も総合計画と合わせる形で見直しを行った、という経緯がございます。</p>
宮田委員長	<p>計画期間についてですが、今回の計画では、前期・中期・後期と4年ごとに見直しを図るという方針が取られておりますが、これは前回の計画にはなかった点であると認識しております。</p> <p>私個人の意見ではありますが、前回の計画を策定した当時は、新型コロナウイルスの発生など、想定もしていなかった事態が起き、その結果、当初想定していた状況とは大きく異なる期間が生じたことも事実であります。</p> <p>そうした事態に対応するためにも、計画の途中で見直しを行っていくという方針は、必要なことではないかと考えております。</p>

<p>一同</p>	<p>このような形で進めていくことは、良い取り組みなのではないかと、個人的には思っております。</p> <p>了承</p> <p>6 現行ビジョンの検証、次期ビジョンの基本方針の確認 (1) (現行) 美幌町観光振興革新戦略ビジョン概要 (2) 第2次美幌町観光振興革新戦略ビジョン構成案 について資料1に基づき事務局より説明</p>
<p>宮田委員長</p>	<p>戦略ビジョンの策定に関連して、「観光まちづくり協議会」について、私からも補足させていただきます。</p> <p>当時、商工会議所としては、観光振興を通じた街中の経済活性化を重要視しており、「多くの方に美幌町に訪れていただき、町でお金を使っていた」「美幌町を知っていただき、ウェブなどを通じて町の物産を購入していただく」といった観点から、観光による経済波及効果の拡大を目指しておりました。</p> <p>観光の裾野は広く、街中にお金が循環する仕組みをより明確にしていく必要があるという考えのもと、商工会議所では農林水産省の補助金も活用しながら、その推進を図ってまいりました。</p> <p>その過程で、美幌町とも協議を重ねながら「観光まちづくり協議会」の立ち上げを進め、当時はJAにもご参加いただき、商工会議所、町、観光物産協会、金融機関など、関係団体が連携して、「観光と経済活動を一体的に捉えたまちづくり」を目指す体制を構築しました。</p> <p>また、美幌町においては、かつて駅前に宿泊し、駅から阿寒までバスで移動するなどの滞在型観光が見られた時期もありましたが、現在は通過型となっている傾向が強まっております。そうした状況を踏まえ、「いかに美幌町に滞在していただけるか」という課題に対応する形で、さまざまな取り組みを進めてきたという経緯がございます。</p> <p>そのような取り組みの中で、「体験ツーリズム」の分野においては、観光産業界が中心となり、津別町・大空町・美幌町の3町による広域観光協議会を組織し、「屈斜路カルデラトレイルルート」の開通に向けた取組を進めてまいりました。</p> <p>見晴らしの美しい美幌峠の絶景を、ただ眺めるだけでなく、実際に歩きながら自然を五感で感じるという点において、非常に魅力的であり、体験ツーリズムの起爆剤となり得る資源であるとの認識のもと、昨年度末にルートが開通いたしました。</p> <p>開通初年度となる本年は、6月から10月末までという限られた期間ではありましたが、順調に多くの方々にご体験いただきました。また、学校の授業の一環として、生徒の皆さんにも取り組んでいただくなど、良い形で地域に根付き始めているものと感じております。</p> <p>現在の戦略ビジョンの中においても、この体験ツーリズムの取組がうまくつながった部分もある一方で、道半ばであったりなかなかうまく進んでいない部分もあると感じております。</p> <p>今後のアクションプランに関する評価につきましても、ぜひ皆様からのご意見を頂戴できればと考えております。</p>
<p>滝川委員</p>	<p>みどりの村の利活用に関する考え方についてですが、利用者目線で捉えますと、みどりの村単体というよりも、周辺にある博物館や空き店舗、スキー場なども含めて、ひとつのエリアとして一体的に活用していくような考えの方が、より効果的なのではないかと思えます。</p>

河端委員	<p>ただし、現実的には、それぞれの施設の所管部署が異なるため、組織横断的な取組となると、運営面での調整が難しい部分もあるかと理解しています。とはいえ、そうした課題を踏まえた上でも、「エリア全体でブランディングを行う」といった考え方は可能なのか、また、実現性があるのかといった点について、ご意見を伺えればと思います。</p> <p>当該エリアには、各施設が比較的集約されており、それぞれ異なるカテゴリーの施設が存在している状況です。</p> <p>こうした状況の中で、これらの施設をうまく連携させながら、「みどりの村」の魅力向上につなげていくような方向性が非常に重要であると考えており、現在もその方向で取組を進めているところです。</p> <p>具体的には、東京農業大学オホーツクキャンパスとも連携し、たとえばグリーンビレッジに宿泊された方や、キャンプに来られた方が博物館に気軽に立ち寄り、博物館の学芸員が実際に自然の中に出て解説を行うといった取組も進めております。</p> <p>また、KITENとの連携により、同施設で開催される各種イベントと連動させて、「みどりの村」側でもタイアップしたイベントを実施しており、今後も引き続き展開していく予定です。</p> <p>まさに今、委員からご指摘いただいたような一体的なエリア活用の形が理想であると考えており、決して縦割りの対応ではなく、連携を重視した取り組みを進めてまいります。</p>
滝川委員	<p>分かりました。</p>
宮田委員	<p>博物館とかでは、午来さんが農業ツーリズムで学生受け入れしてますけど、そういった方々の利用とかもされてるんですか。</p>
午来委員	<p>基本的な話として、「農観連携」という言葉をご存じの方もいらっしゃるかと思います。</p> <p>これは、農業と観光分野が連携し、農山漁村に人を呼び込もうという国の施策であり、2014年に農林水産省と観光庁が業務提携を結んで、公式な取り組みとしてスタートしています。</p> <p>私自身が関わっている取組では、地元の農家の皆さんの協力を得ながら、農業体験を通じて人を呼び込む活動を行っており、これは特に都市部の学校のニーズに応える形で実施しています。</p> <p>今、宮田会長からもお話がありましており、観光と地域が融合することが非常に重要であり、博物館や観光施設、さらには「笑顔プロジェクト」など、人と人とのつながりも含めた連携によって、ワンチームで滞在時間を延ばすような取り組みを進めていく必要があります。</p> <p>実際に、私たちのチームにも「笑顔プロジェクト」や博物館の関係者に入っていていただき、連携して先方（訪問者）に提案を行い、より長く滞在していただき、そして美幌を選んでもらえるような地域づくりを目指しています。</p>
宮田委員長	<p>トレイルルートが整備されたところですが、今後、そういった場所の利活用についても、検討していくことは可能なのでしょうか。</p>
午来委員	<p>そのお話をいただいたのは今回が初めてですが、可能性としては十分にあると考えております。</p> <p>私もまた12月に旅行会社や学校関係者との面談・商談会に参加予定ですが、現時点ではそういったトレイルルートの活用についての具体的な話題</p>

<p>宮田委員長</p>	<p>は、まだ出ておりません。 ただし、今後、美幌町に滞在していただく中での一つのコンテンツとして、トレイルを提案の一部として組み込んでいくことは十分に想定しております。 現段階では、こちらから積極的に情報発信する準備までは至っておりませんが、旅行会社やエージェント、または学校関係者などと関係性を構築し、「他に何か体験できるものはありますか」といったニーズが出てくる中で、実績を積んでいくことにより、今後そのような活用へと展開していくものと考えております。</p> <p>トレイルルートが完成した際には、ぜひそのような形で利用していただきたいという思いは、以前から思っております。 受け入れにあたっては、例えば滝川さんたちが、参加される方々に対してレクチャーを行ったり、実際に現地へ案内したりといった対応も可能ではないかと考えております。 ただし、その際に人数制限などの制約が生じる可能性もあるかと思えます。あまりに多人数での受け入れになると、対応が難しくなるといった点も想定されますがいかがでしょうか。</p>
<p>滝川委員</p>	<p>やり方次第だと思います。</p>
<p>午来委員</p>	<p>実際のところ、どこに対して売り込みを行っているのでしょうか。 旅行会社や商談会といった場での売り込みなど、そういった形での取組が行われているのか、教えていただければと思います。</p>
<p>滝川委員</p>	<p>アウトドア分野に特化した、非常に専門性の高い商談会などがありまして、主にそういった場に出向いて売り込みを行っている、という状況です。</p>
<p>午来委員</p>	<p>今後さまざまな取組が進んでいく中で、農業分野とつながっていくような展開も十分に考えられると思いますので、そうした将来的な可能性についても、あらかじめある程度想定しておいていただければと思います。</p>
<p>滝川委員</p>	<p>わかりました。</p>
<p>信太委員</p>	<p>資料のまとめ部分（6ページ）において「このビジョンは一定の成果を上げた」と記載されておりますが、私からも意見を申し上げますと、個人的にはその評価にやや物足りなさを感じており、せっかく策定された戦略が十分に活かされていなかったのではないかと考えております。 「人づくり」についてですが、私自身、前回のビジョン策定の際に、「人づくりこそが一番の礎である」との強い思いから、その要素を組み込ませていただいた記憶があります。 実際、計画がスタートして間もなく、観光まちづくり協議会が設立されました。しかし、同協議会は令和3年に解散となっており、個人的には少し中途半端な形で終わってしまった印象を受けております。 評価の「3」は、「2」に近い「3」といった印象で、人材育成という観点でも、本来であれば協議会の中で育っていく人材がいたはずですが、その機会が十分に活かされなかったのではないかと感じています。 もちろん、田中さんのように観光分野で引き続きご活躍いただいている方もいらっしゃると思いますが、観光分野という一部だけでなく、まちづくり全体を見たときには、評価「4」には至っていないのではないかと考えており、私は「3」が適当と感じています。</p>

<p>宮田委員長</p>	<p>また、アクションプランの7ページ、「基本方針07」の項目に関しては、RVパークの整備が、美幌にとって滞在環境の整備という面で非常に大きな前進であったと評価しています。一步、二歩進んだ成果であり、現在も課題を抱えつつも稼働率は高く、実績としても評価できる内容だと感じています。</p> <p>したがって、評価としては「4」に近い「3」と言えるかもしれませんが、RVパークを整備したこと自体は、もっと高く評価されるべきだと思っており、一定の定価というところには、ちょっと抵抗を感じているというようなところですよ。</p> <p>RVパークなどの整備については、本当に実施していただいていたことがたかたか感じております。</p> <p>やはり、グランドホテルの閉館などもあり、コロナ禍で滞在先の確保が難しい厳しい状況が続く中で、宿泊できる場所があるというのは非常にありがたいことでした。</p> <p>アルムシステムさんについても、通年でご対応いただきありがとうございます。実際に宿泊者の傾向を見ますと、作業服を着た業界関係者の方々が長期滞在されているケースが多く見受けられます。</p> <p>美幌町は、国道が4本通っており、道路も広く、交通の要所に位置することによって、非常に「地乗りの良い場所」であるというのは、私自身も以前から繰り返しお伝えしてきたところです。</p> <p>実際に、例えば標茶方面で工事に携わっている方でも、美幌に宿泊されるケースがあるように、ビジネスにおいても美幌は拠点として活用されています。</p> <p>これは観光においても同様で、美幌町からであれば、1時間から1時間半程度で釧路方面を含むオホーツクの主要な景勝地・観光地の多くへアクセス可能ですし、空港からの距離も近いことも大きな利点です。</p> <p>こうした「地乗りの良さ」を、今後の観光戦略やまちづくりの中でも、しっかり活かしていくべきではないかと感じております。次期計画には、ぜひそういった視点も盛り込んでいただきたいと思います。</p>
<p>小林委員</p>	<p>宿泊に関する点ですが、先日、私自身が屈斜路カルデラトレイルの事務局としての立場から、美幌町内のグリーンビレッジ以外の宿泊施設、具体的には峠荘、青葉荘、民宿おがた、アルム様の各施設に対して、トレイル利用者の宿泊状況についてヒアリングを行いました。</p> <p>その結果として、このシーズンにおけるトレイル関係の宿泊者は、全体の1割にも満たないという状況が見受けられました。実際には、宮田会長もおっしゃっていたとおり、宿泊されている方の9割以上がビジネス目的での滞在であり、観光客はごく一部にとどまっているとのことでした。</p> <p>したがって、宿泊者数の入込数を観光客数と見なすのは現状では適切ではなく、実際には多くがビジネス利用であると認識しております。</p> <p>ただし、RVパークに関しては、利用目的がほぼ100%観光であると考えられることから、こちらの利用者数については観光の入込数として扱って差し支えないのではないかと感じております。</p> <p>現時点では、美幌町内の宿泊施設における利用の大部分が観光目的ではないというのが実情であると、改めて認識しております。</p>
<p>宮田委員長</p>	<p>もともとは観光まちづくり協議会を含めた議論の中で、美幌町における「滞在」や「観光」に弱さがあるとの課題認識がありました。</p> <p>ちょうどそのタイミングでコロナ禍が始まり、当初は不安もありましたが、結果として国内旅行が活発になったことで、民泊の宿泊者数も想定以</p>

<p>信太委員</p>	<p>上に伸びました。</p> <p>主な利用者は日本人のほか、国内在住の外国人の方も多く、最近ではアジア系の観光客に加え、欧米系の方の利用も見られるようになってきました。</p> <p>一方で、ビジネス目的の日本人利用は少ない傾向です。</p> <p>そういった意味で、民泊の宿泊者はほぼ観光目的の方が中心であり、観光客の受け皿としての役割が大きいと感じています。</p> <p>民泊利用者は、自炊をされる方もいらっしゃいますが、多くの方が町中に出向いて食事や買い物をされており、結果的に町内での経済循環につながっている面もあります。</p> <p>今後はこうした民泊の活用をさらに進め、町内でお金を使っただく仕組みや仕掛けを考えていくことも、一つの方向性として有効なのではないかと考えております。</p> <p>また、町づくり協議会の解散についてですが、その後の情報共有が十分に行われていないと感じております。</p> <p>協議会が活動していた当時は、商工会議所、観光協会、JA、美幌町などの関係機関が一堂に会し、「何をやるのか」「どう連携するか」といったことを共有できる場があり、情報の共有や調整がしやすい環境だったと思います。</p> <p>しかし、解散後は、それぞれの団体が個別に取り組みを進めている印象で、情報は各団体のSNSなどを通じて個別に確認すれば分かるものの、実際に一堂に会して「この取り組みをどう調整するか」といった話し合いが行われる場がないように感じています。</p> <p>そのため、情報交換や共有のための会議体、あるいは何らかの仕組みを再度設ける必要があるのではないかと考えております。</p> <p>そうした意味でも、町づくり協議会の解散は非常に残念だったと、改めて感じております。</p> <p>議案7ページ、屈斜路カルデラトレイル（KCT）に関する記載についてですが、この点に少し違和感を覚えております。</p> <p>KCTは現時点で整備されたばかりのものであり、「滞在型・体験型観光の“核”」と位置づけるには、まだ早いのではないかと考えています。というのも、KCTは5月から10月までのグリーンシーズン限定で実施されているものであり、現状では、まだ人を大きく呼び込めるほどの規模や体制に至っていないのが実情です。</p> <p>もちろん、今後の展開次第では、観光振興における重要な柱となっていく可能性は十分にあると思いますが、現在の段階では“核”というよりも、“ステップ”としての位置づけが適切ではないかと感じています。</p> <p>実際、現状でKCTに直接携わっている人材はごく限られており、兼業や副業で関わっている方がほとんどで、本業として継続的に担える体制には至っていません。したがって、今後10年をかけて、関係する事業者や人材を徐々に増やしていく中で、段階的に育てていく資源として捉えるのが現実的ではないかと考えます。</p> <p>また、“核”といえる存在は、現状ではやはり美幌峠の施設や道の駅のように、何万人・何十万人という来訪者が集まる場所であると認識しています。その点で、KCTはサブ的な位置づけであり、重要な方向性であることは理解しつつも、中心に据える表現は再検討が必要ではないかと思えます。</p> <p>あわせて、みどりの村についても、現在は冬季利用が制限されていますが、今後は年間を通じた集客が可能な施設として活用していくことが、まち全体の観光活性化のためにも重要だと考えております。</p>
-------------	---

宮田委員長	その点につきましても、今後の協議の中で、関係者の皆様としっかり打ち合わせを重ねながら検討を進めていければと考えております。
宮田委員長	食の部分について野口さんいかがでしょうか。
野口委員	<p>先ほどのお話にもありました「人」やそれぞれの分野の取組については、非常に優れた考え方が全体的にビジョンに盛り込まれていると感じております。</p> <p>ただ、実際に活動を担うプレイヤー、例えば私自身や滝川さん、小林さんのような方々が、どれだけこのビジョンの中に含まれているのか、またそういったプレイヤーの視点がビジョン策定の段階でどれほど反映されていたのかという点は、やや見えづらいのではないかと感じております。</p> <p>実際に、トレイルを担当されている方はトレイルで成果を出し、農業体験などを進めている方は農業の分野で成果を出しており、それぞれが非常に高い専門性と実行力を持って取り組んでいます、それらが有機的につながる仕組みがないため、「ここに来て初めてわかる情報」になってしまっているのが現状です。</p> <p>このような情報の分断は町民にも同様に起こっている可能性が高く、だからこそ、ビジョン策定時に「一つの枠組みの中でそれぞれが動いていく」という考え方を強調しておくことが重要ではないかと考えます。</p> <p>例えば、トレイルの枠組みの中で農業体験を希望する人が現れれば、その2つは自然とつながっていきますし、そのつながりがさらに広がっていくことで、新たなステークホルダーやプレイヤーが自発的に動き出すような、俯瞰的な構造が求められるのではないかと思います。</p> <p>現在の美幌町のビジョンにおいて不足しているのは、この“搬送支援”を担うリーダー的存在やファシリテーター的なプレイヤーが地域に何人いるのかという視点だと感じています。</p> <p>そのような人物が明確になれば、この計画に基づいて、全体を俯瞰しつつ個々の動きを搬送・調整できるようになるのではないかと思います。</p> <p>したがって、ビジョンが策定された後は、プレイヤーの皆さんにしっかりと内容を共有し、計画の目的や方向性を明確に伝えていくことで、それぞれが自律的に動き、結果として地域全体が自然と搬送していく流れが生まれるのではないかと考えております。</p>
宮田委員長	なかなか知られていない部分もあったのかなと思いますし、そういったところも含めて、さっきの話につながるのかなと感じました。
弥三谷委員	<p>正直なところ、最近アルムホテルに泊まっている方とお話しする機会がすごく増えてきてまして、観光についてよく聞かれるんですよ。</p> <p>ただ、自分としては「美幌峠以外で美幌には観光っていう観光は正直あまりないんですよ」と説明することが多いです。</p> <p>実際に、1週間とか1か月単位で滞在されている方がけっこういらっちゃって、お休みの日にどこか観光行きたいって言われることがよくあります。</p> <p>なので、今のところは近隣の市町村の観光地をご紹介しているんですけど、「じゃあ美幌で観光できるところってどこ？」ってなると、なかなか自信を持ってオススメできる場所がすぐに浮かばないんですよ。</p> <p>あと、お土産に関しても、「美幌らしいもの、何買ったらいいですか？」っていう会話もよくあります。</p> <p>そういった意味でも、今の美幌では観光や土産といった面を強く打ち出すのは、まだちょっと難しいのかなというのが、正直な印象です。</p>

野口委員	<p>お金を落としてもらうという点で言うと、マーケティング的に、やっぱり客層で大きく違いがあるなと感じています。</p> <p>民泊を利用される方って、正直なところ、出費を抑えたいという考えの方が多い印象です。なるべく宿泊費を抑えて、その分、地域の食材とか物を買って過ごすというスタイルですね。</p> <p>一方で、例えばトレイルを利用するような層の方は、たぶん富裕層が多いんじゃないかなと思います。そうすると求めるサービスのレベルもかなり高くて、温泉だったり、食事のクオリティだったり、そういう部分に対しても高い期待を持たれていると思うんです。</p> <p>美幌にそのレベルのサービスがあるかという、今の段階ではまだそこまで整っていない。なので、トレイルを本格的に受け入れていくとなると、そういった環境をこれから整えていかないといけないフェーズに入ってくるんじゃないかと感じます。</p> <p>一方で、現状の美幌には、どちらかというとも民泊を利用されるような比較的成本意識の高い方々が多く来られている印象があって、私自身、飲食店を経営していますが、実際にかなり多くの方がレンタカーで来られて、うちの店でも今ではおよそ4~5割が美幌町民ではないお客様です。</p> <p>そういう意味では、今の美幌の観光の実態としては、トレイルのようなハイグレードな観光資源を活かすにはまだ課題がある一方で、民泊を軸とした地元密着型の観光は、実際に手応えを感じている部分でもあると考えています。</p> <p>今のような実情を踏まえると、どちらかというとも民泊などを活用している層、つまり今すでに美幌に来てくれている方々に向けたアプローチのほうが、成果を出すには早いんじゃないかと感じています。</p> <p>その中で、「あ、この人もう少しサービス強化すれば、もっと良くなるな」という方を見つけて、そこを重点的に伸ばしていく。そういう形のほうが、地に足のついた近道なんじゃないかと思います。</p>
滝川委員	<p>いろんなプレイヤーがそれぞれ活動していて、私たちも「どういうお客さんをターゲットにしているのか」とか「どんな商品を出しているのか」というのを、共有する場が今はなくなってしまっているんですよね。</p> <p>だから、「どこにおすすめすればいいのか」「どんなサービスを紹介すればいいのか」という話をする機会も減ってしまっていて、町づくり協議会がうまくいかなかったことで、より顕著になってしまったなと感じています。</p> <p>その結果として、そういう全体をまとめたり調整したりする人材も出てこなくなってしまうと、やっぱりそこは大きな痛みだったなというふうに思っています。</p>
宮田委員長	<p>本当にあの時も、「その人に合ったものをちゃんと提案していくべきだよな」という話をしていたんですよね。</p> <p>ですから、今回の計画を立てるにあたって、ただ計画を作るだけでなく、実際に町民の方や事業者の方にとってプラスになるような仕組みや仕掛けも一緒に考えていけたらいいなと思っています。</p> <p>立場的には、計画を作る側でもありますけど、同時に実行していく側でもありますし、皆さんもそうだと思うんです。</p> <p>商工会議所としても、やはり地域経済の活性化という視点がベースにありますので、</p> <p>「観光振興＝人を呼ぶだけ」ではなくて、「お金を使ってもらう」ということもセットで形にしていけたらと考えています。</p>

	<p>7 今後の進め方の整理 事業者向けアンケートについて資料2に基づき事務局より説明</p>
宮田委員長	<p>質問等ありますでしょうか (質疑等なし)</p>
宮田委員長	<p>原田先生、最後に全体の総括やアドバイス等をお願いできますでしょうか。</p>
原田委員	<p>全体として、グリーンシーズンにばかり重点が置かれている印象を少し受けました。 屈斜路カルデラトレイルも、なぜ冬は活用されていないのかな？と、以前から疑問に思っていたところです。 おそらく、冬季の観光客が少ないという現状があるのだと思いますが、そういった点が今後の課題として意識されているのか気になりました。 私自身、カルデラトレイルが整備される以前は、津別峠で山スキーをしたり、滑走路周辺で遊んだり、冬でもアドベンチャー的な体験ができる可能性を感じていたんです。 そういったツアーや体験型の観光も、上手く企画すれば人を呼び込める要素になるんじゃないかと、ずっと思っていました。 私は美幌町民ではありませんが、今日のお話を聞かせていただいて、知らないことがたくさんありましたし、大変勉強になりました。</p>
宮田委員長	<p>それでは、全体を通してご質問等はございませんか。 よろしければ、以上をもちまして閉会といたします。 今後、複数回にわたり会議を開催いたしますが、どうぞ引き続きよろしくお願いたします。</p> <p>閉会</p>